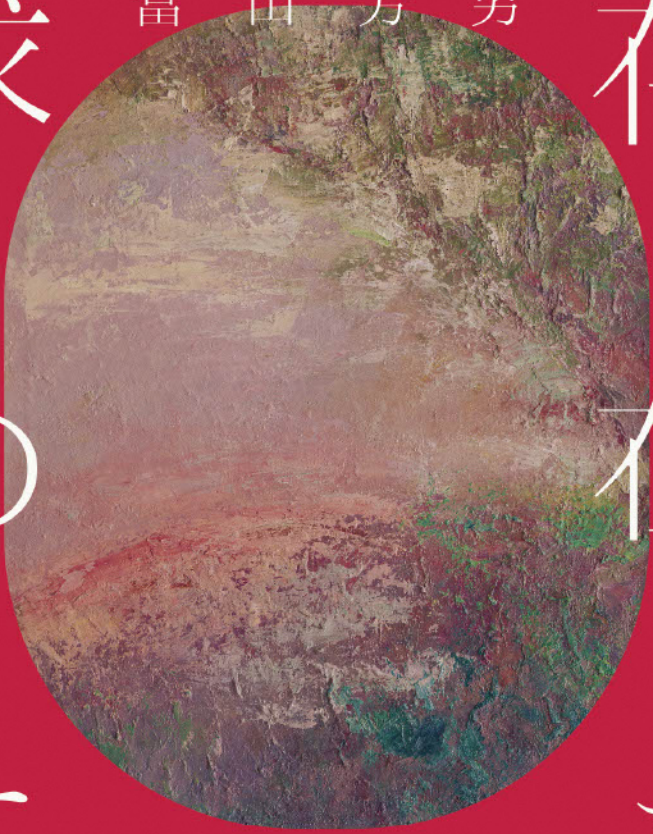
Kurobe Art Research vol.3

富山芳男

存在を求めて

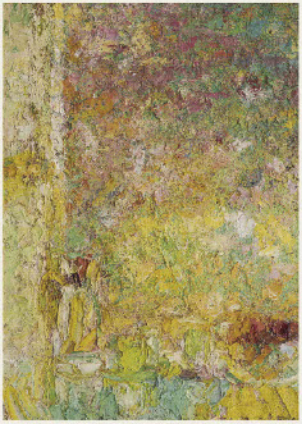


KUROBE CITY ART MUSEUM
黒部市美術館

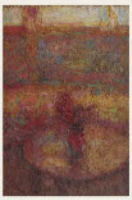
2026年1月17日(土) — 3月22日(日)

YOSHIO TOMIYAMA

主催／黒部市美術館　共催／北日本新聞社　後援／北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、みらーれTV、新川コミュニティ放送











[上から]
《悠迂の静物》1977年、キャンバス・油彩
《憧える女》1955年、キャンバス・油彩
《卓上結れ花》1974年、キャンバス・油彩　《風景(デッサン)》制作年不明、紙・コンテ
《存在についての習作(「神行」の作 貴方なり)》1993年、キャンバス・油彩

[表]
《存在についての習作》1994年、キャンバス・油彩

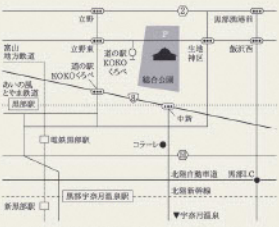
黒部市にゆかりのある作家を紹介するシリーズ Kurobe Art Researchの第3回目として、黒部市生地出身の画家 富山芳男の展覧会を開催します。富山は18歳の頃より、洋画家 鹿子木孟郎のアカデミーで素描を学び、20歳で画家になることを決意して上京、太平洋美術学校で学びました。以来、「自然の神秘と自己の存在」をテーマに精神絵画の樹立を試み、日展から白日会へと作品を発表し続けてきました。60歳を迎えると、埼玉県飯能市の自然豊かな地へと居を移し、2001年に90歳で逝去するまで「存在についての習作」という題名で多くの絵画作品を残しています。本展では、黒部市及び黒部市美術館所蔵の作品を中心にご紹介します。

富山 芳男

YOSHIO TOMIYAMA
(1910～2001) 黒部市生地生まれ



1926年生地尋常高等小学校卒業後、大阪の大丸百貨店に入社。1928年鹿子木孟郎のアカデミーで素描を学ぶ。1931年上京、太平洋美術学校に学ぶ。1936年新文展に《坐せる女》が初入選。その後、妻をモデルにした人物画を描く。1948年から白日会会員。1958年白日会第1回中沢賞受賞。この頃より絵画思考が変化し、「存在についての習作」なる画題の時期に入っていく。1970年に埼玉県飯能市に移住。風景画など自然をモチーフにした制作を始めた。1977年絶展創立。1989年第65回白日会展内閣総理大臣賞受賞。



あいの風とやま鉄道「黒部駅」から
約7分
石田三日市線北ルート(平日のみ)
「道の駅KOKOくろべ」下車 徒歩9分
生地循環線 道の駅KOKOくろべ行き
「道の駅KOKOくろべ」下車 徒歩9分

北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」から
約20分
富山地方鉄道「新黒部駅」富山方面 →
「電鉄黒部駅」→バス 生地循環線
生地循環線 道の駅KOKOくろべ行き
「道の駅KOKOくろべ」下車 徒歩9分

詳細は、黒部市内全域公共交通マップホームページをご参照ください　http://www.kurobe-koukyoukoutsuu.jp/map/

会期
2026年1月17日(土) ― 3月22日(日)

休館日
月曜日(但し2月23日は開館) 2月12日、24日、25日

開館時間
9:30 ― 16:30 (入館は16:00まで)

観覧料
一般 500円(400円)、高校・大学生 400円(300円)、中学生以下 無料

*[　]内は20名様以上の団体料金
*障害者等手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料となります(受付で手帳を提示してください)

KUROBE CITY ART MUSEUM
黒部市美術館

〒938-0041
富山県黒部市堀切1035
TEL/FAX 0765-52-5011